

高齢者の透析選択



? | **これから父(75歳)が透析を始めますが、透析療法によって、
家族の役割はどのように違うでしょうか。**

高齢者の場合、本人の意志(全てを理解して決定した意志ではなく、家族に迷惑を掛けたくないとか、感情的に透析はイヤなどの理由も多いので注意が必要)以外に、患者さんの背景、病態、協力者の有無などを十分にふまえて、透析方法の選択をする必要があります。いずれの透析方法でも、家族の協力が必要となりますので、患者さんと主治医とご家族でよく話し合っ決めて決めることが大切です。

血液透析

(1) 週2-3回の通院が必要

病院での透析なので通院回数が多いのですが、最近は介護保険や透析施設の送迎サービスが利用できる場合が増えています。

(2) 厳密な食事療法

血液透析では食事制限が厳しいので、その範囲内での献立が必要です。高齢の患者さんでは一般に心臓などの循環器系の合併症をもっておられる方が多くおられます。血液透析は間欠的な治療法ですから、心臓への負担が多くなります。一方、CAPDは連続的な治療法ですから、心臓の悪い高齢の患者さんには向いているかも知れません。

腹膜透析(CAPD/APD)

(1) 在宅治療

在宅医療ですから通院が少なくなります。しかし全て本人や家族が行わねばなりません。患者さんが自分で全て出来る場合を除いて、家族のサポートが必要となります。

(2) 食事療法

食事制限は血液透析より楽です。これは高齢の患者さんにとっては非常に重要です。長い間続けてきた食事習慣を変えるのは高齢の患者さんにとっては大きな負担です。食事制限が守りにくい患者さんにはCAPDの方が向いているかも知れません。